



ME室だより

今回は在宅看護でも利用される【経腸栄養用輸液ポンプ】についてお話しします。



経腸栄養用輸液ポンプとは？

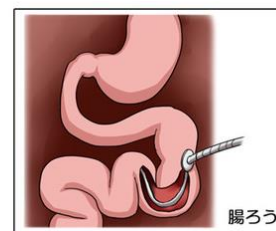
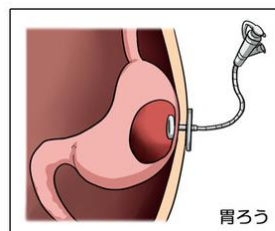
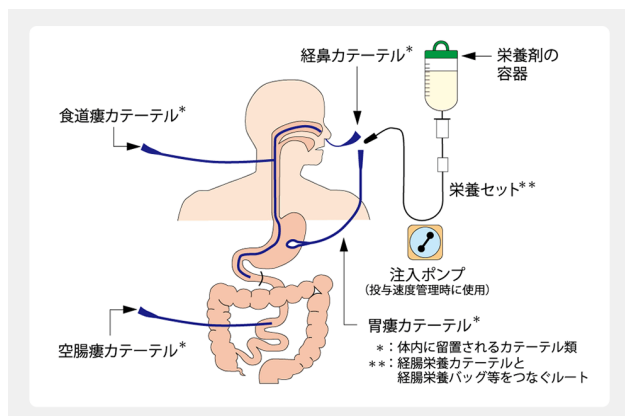
医薬品及び溶液(栄養剤)等をポンプによって発生した陽圧により患者に注入することを目的として、あらかじめ設定された投与速度又は投与量に従って連続(持続)注入、非連続(間欠)注入又はボースを制御するポンプのことです。

どんな時に使う？

経管栄養とは、消化機能は十分であるものの、何らかの理由によって経口摂取が不可能である場合に施行されます。経腸栄養剤の注入は重力式の自然滴下法でも可能ですが、より正確な注入量が要求される場合には注入ポンプを使用します。注入ポンプを用いることで経腸栄養の合併症である下痢や嘔吐、誤嚥、および誤嚥性肺炎発症の頻度が低下すると考えられています。

栄養剤はどこから入れる？

経管栄養には、鼻からカテーテルを胃あるいは十二指腸、空腸まで挿入する**経鼻法**と、頸部(けいぶ)や腹部に造った小さな穴(瘻孔<ろうこう>)にカテーテルを通して栄養剤を注入する**経瘻孔法**があります。通常、短期間の栄養管理には経鼻法が、長期(4週間以上を目安)にわたると予想される場合は経瘻孔法が選択されます。

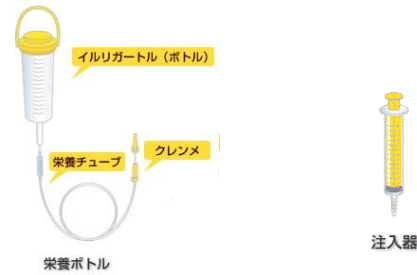


経腸栄養は、高エネルギー投与ができ、体の消化吸収能を利用する点で生理的な補給方法といえます。一方、消化器症状(悪心・嘔吐、下痢など)の発生頻度が高く、経鼻ルートでの咽頭部不快感や、細かな組成調整ができないなどの欠点もあります。

どんなポンプがある？



5~6社がいろいろな外見の機器を販売していますが、【経腸栄養用輸液ポンプ】の名称で販売しています。この機器は機器専用の回路を用いるように設計されているものがほとんどです。なぜなら在宅療養での利用を想定されており、医療知識の少ない在宅での介助(介護)者でも間違えることなく簡単に回路の装着をできるようにするためです。また、間違った装着をしたときに注入できなくするためです。



機器の回路をはめ込む部分に特殊な形状の溝があり、その溝に合う形のクリップを回路に取り付けてあります。



当院はアプリクススマート((株)フレニウス)を2台所有しており利用しています。さらに必要な場合はレンタルにて対応しています。

注入ポンプの適応をまとめると、

- 1・下痢の回避(消化管機能低下時や腸痙からの経腸栄養時)
- 2・嘔吐の回避(消化管運動低下など)
- 3・持続投与が必要な場合(腸痙など)
- 4・手術侵襲の大きい術後の経腸栄養
- 5・腸痙からの在宅経腸栄養
- 6・意識障害や嚥下反射の低下がある場合

などが挙げられます。目的に沿った利用をして頂ければ大変便利なものです。



重要！ 回路の接続形状が変わります。

誤接続防止目的で回路の接続形状が変わります(2021年11月末)。移行期間中は変換プラグがありますがそれも今後廃止されます。切り替え時期や方法は病院からされますので取りこぼしのないようお願いします。

